異次元水族館

世界は広くて近し　日本は水族館の数で世界一

理由は簡単ではないが　推察はできそう

先ず　「水族」とは何か？

調べれば　水中にすむ動物　水生動物とある。

では　在ってしかるべき

陸族とか地族とか木族とか

空族とか海族とかはあるのか？

あるある！　が　ふざけた集団で

何とか族の乱立で　学術性とは無縁の

ハチャメチャ族（古語？）どもで

日本語の「水族」は　今や貴重な存在

遠回りはこの辺にして

水族館で見たり　テレビで報道される

水族動物の動き　様々な種が

我関せずで　他種にも面倒と迷惑かけずの

優雅な動きと　観覧者の目前を秩序ある回遊で

弱肉強食の修羅場はない

異次元の世界と言える。

調べると

*水族館で共喰いが起きない理由は*

*サメにとって食べることは*

*空腹を満たすことだから*

*食が足りているサメは魚を襲ったり*

*共食いしたりすることはない*

*人は娯楽で食事を楽しむが*

*サメは生きるために食べているので*

*無駄な殺生はしなく*

*水族館のサメには十分な餌を与えており*

*他の魚を食べたり共食いすることない*

こんな説明で納得できるほど　素直になれない！

眼前にあるのは　まさに異次元の水族館で

「衣（胃）食足りて礼節を知る」や

「知足安分」が

来館者には威圧遊泳に見える

ジンベイザメに対する　水族館側が提示する

論理的倫理だそうで。

もし　小生が

水族館に捕らわれのジンベイザメなら

「空」「満」腹に関わらず　おいしそうなのを

追いかけ回し　食いまくる

でも　真夏の甲子園の高校球児の　力投や力走

パラリンピック選手の　奮闘ぶり

正月の箱根駅伝を２日間　若い大学生が力走する

それを見て　涙で　画面ぼやけ

こんなジンベイザメでは　小魚やミジンコによる

群魚的分解処理の対象となり　跡形もなくなろう

水族館には　プーチンやシュウやキムやネタニエフや

その他諸々の悪族が　探餌遊泳しておらず

水族が水環境に安住の日々

何故だろう？

人間世界なら　道徳的基盤を持ち出せるが

人族以外の間の平穏と秩序の由来は？

神の本来の摂理が

人間が遊泳しない水族館では存在するのか？

地球という「水族館」に　正確には「地族館」に

人間を存在させられたのは

神様の大失敗であり　神様も「しまった」と

唯一の失敗を嘆いておられ

人間の　歴代の絶え間なき悪業交換は

人間の自己都合で　神を騙り曲解し利用し

その結果は　今や

人間が招く　人間の破滅のカウントダウンが始まり

人間（人族）に残された唯一の自己解決

とその手段

「人類自滅」「人族自滅」で解決される

その日が迫り来る

水族館と水族は　人間に

厳粛な「人間の悟るべき真の倫理」を提示する

聖なる教典で偉大な存在である。